

柴田平三郎先生略歴・主要著作目録

略 歴

- 昭和二一年（一九四六）二月 東京にて出生
- 昭和四〇年（一九六五）四月 慶應義塾大学法学部政治学科入学
- 昭和四四年（一九六九）四月 同大学大学院法学研究科修士課程政治学専攻入学
- 昭和四六年（一九七二）三月 同修士課程修了（法学修士）
- 昭和四六年（一九七二）四月 慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程入学
- 昭和四九年（一九七四）三月 同博士課程単位取得満期退学
- 昭和四九年（一九七四）四月 中京大学教養部 非常勤講師（昭和五〇年〔一九七五〕三月まで）
- 昭和五〇年（一九七五）四月 千葉商科大学商経学部専任講師（政治学・政治思想史）
- 昭和五三年（一九七八）四月 同助教
- 昭和五七年（一九八二）四月 獨協大学法学部助教（政治思想史）
- 昭和五七年（一九八二）四月 千葉商科大学商経学部非常勤講師（平成三年〔一九九二〕三月まで）
- 昭和六〇年（一九八五）四月 慶應義塾大学法学部非常勤講師（昭和六一年〔一九八六〕三月まで）
- 昭和六一年（一九八六）三月 博士（法学）（慶應義塾大学）
- 昭和六一年（一九八六）四月 獨協大学法学部教授

平成三年(一九九二)七月 ロンドン大学ウォーバーク研究所留学(平成五年(一九九三)三月まで)

平成八年(一九九六)四月 明治学院大学大学院法学研究科非常勤講師(平成一五年(二〇〇三)三月まで)

平成一〇年(一九九八)四月 フェリス女学院大学国際交流学部非常勤講師(平成一三年(二〇〇一)三月まで)

平成一〇年(一九九八)四月 獨協大学学友会総務部長(平成一二年(二〇〇〇)三月まで)

平成一三年(二〇〇一)四月 千葉大学法経学部非常勤講師(平成一五年(二〇〇三)三月まで)

平成一六年(二〇〇四)四月 獨協大学法学部長、同大学院法学研究科委員長兼任(平成二〇年(二〇〇八)三月

まで)

平成二一年(二〇〇九)四月 獨協大学図書館長(平成二四年(二〇一二)三月まで)、同エクステンションセン

ター長兼任(平成二三年(二〇一一)三月まで)

平成二八年(二〇一六)三月 獨協大学法学部教授退任

所属学会

日本政治学会

政治思想学会

中世哲学会

西洋中世学会

柴田平三郎先生主要著作目録

学位論文

昭和四六年（一九七二）三月 「アウグステイヌス政治思想における“*libido dominantis*”の概念」（慶應義塾大学大学院法学研究科論文集）法学修士

昭和六一年（一九八六）三月 『アウグステイヌスの政治思想——『神国論』研究序説』（未來社）法学博士（慶應義塾大学）

主要著作

【主著】

昭和六〇年（一九八五） 『アウグステイヌスの政治思想——『神国論』研究序説』 未來社

平成一四年（二〇〇二） 『中世の春——ソールズベリのジョンの思想世界』 慶應義塾大学出版会

平成二六年（二〇一四） 『トマス・アクィナスの政治思想』 岩波書店

【共著】

- 昭和五十一年(一九七六) 『国家と政治』南窓社
昭和五十五年(一九八〇) 『政治学への発想』三一書房
平成 四年(一九九二) 『モダーンとポストモダーン 政治思想史の再発見 I』木鐸社
平成一九年(二〇〇七) 『現場としての政治学』日本経済評論社

【主要論文】

- 昭和四六年(一九七二) 「中世の思想的意義について」(『経済論壇』第一七卷七号)
昭和四八年(一九七三) 「瀆神の論理としての政治」(『未来』No.八五)
昭和四九年(一九七四) 「アウグスティヌスにおける〈現世〉(saeculum)の概念」(『法学研究』慶應義塾大学
第四七卷六号)
昭和五〇年(一九七五) 「中世政治思想におけるリアリズムとアイディアリズム」(I)(『千葉商大紀要』第一三卷二
号—A)
「同」(II)(第一三卷三号—A)
昭和五十一年(一九七六) 「主権と絶対主義国家」(『千葉商大紀要』第一三卷五号)
昭和五二年(一九七七) 「芸術作品としての中世国家」(I)(『千葉商大紀要』第一五卷一号)、「同」(II)(第一五
卷二号)
「近代国家の起源について」(『千葉商大創立五〇周年記念論文集』)

- 「〈神の主権〉」とは何か——中世教皇制の政治神学」(Ⅰ)、『千葉商大紀要』第一五卷三号)
「同」(Ⅱ) (第一五卷四号)
- 昭和五四年(一九七九) 「アウグステイヌスとローマ史の陥落——『神国論』成立の基本前提」(一)、『千葉商大紀要』第一六卷四号)
- 「同」(二) (第一七卷二号)
- 昭和五五年(一九八〇) 「古代ローマにおける宗教と政治——『神国論』成立に関連して」(『千葉商大紀要』第一八卷一号)
- 「アウグステイヌス政治思想への接近方法について」(『千葉商大紀要』第一八卷三号)
- 昭和五六年(一九八一) 「アウグステイヌスの政治世界——〈現世〉(saeculum) 観の構造——」(一)、『法学研究』第五四卷一一号)
- 「同」(二) (第五四卷一二号)
- 「アウグステイヌスの人間観」(『千葉商大紀要』第一九卷三号)
- 「支配・権力・国家——アウグステイヌス政治思想の成立——」(『千葉商大紀要』第一九卷三号)
- 「アウグステイヌスの国家観——キケロ『国家論』との関連で——」(一)、『千葉商大紀要』第一八卷四号)
- 「同」(二) (第一九卷一号)
- 「同」(三) (第一九卷二号)

- 昭和五十七年(一九八二)「古代政治思想史におけるアウグステイヌスの位置」(『千葉商大紀要』第一九卷二二号)
「アウグステイヌスの時間論——『告白』第十一巻を中心にして——」(『千葉商大紀要』第一九巻四号)
- 昭和五十八年(一九八三)「アウグステイヌスにおける歴史的時間の構造」(『千葉商大紀要』第一九巻四号)
- 昭和五十九年(一九八四)「アウグステイヌスにおける『教会』と『国家』」(『獨協法学』第二二〇号)
- 昭和六十二年(一九八七)「君主の鑑」(二) (『獨協法学』第二五号)
- 昭和六三年(一九八八)「君主の鑑」(二) (『獨協法学』第二六号)
- 「君主の鑑」(三) (『獨協法学』第二七号)
- 平成 元年(一九八九)「聖トマス・アクイナスと『君主の鑑』」(『法学研究』第六二巻一号)
- 「君主の鑑」(四—一) (『獨協法学』第二九号)
- 平成 二年(一九九〇)「君主の鑑」(四—二) (『獨協法学』第三〇号)
- 「君主の鑑」(五) (『獨協法学』第三二号)
- 「中世の国家像」(田中浩編『現代世界と国民国家の将来』御茶の水書房)
- 平成 三年(一九九一)「君主の鑑」(六) (『獨協法学』三三三号)
- 平成 四年(一九九二)「君主の鑑」(七) (『獨協法学』三四四号)
- 平成 五年(一九九三)「君主の鑑」(八) (『獨協法学』三七七号)
- 平成 六年(一九九四)「ソールズベリのジョンとアリストテレス——政治的徳性(virtus)をめぐる——」(『法

学研究』第六七卷(一一号)

平成 八年(一九九六) 「ソールズベリのジョンにおける〈人文主義〉の意味」(『獨協法学』第四三号)

「アウグステイヌスの社会思想」(上智大学中世思想研究所紀要『中世の社会思想』創文社)

平成 九年(一九九七) 「巨人の肩の上に乗る矮人」——ソールズベリのジョンの思想世界」(『法学研究』第七〇

卷二号)

「ソールズベリのジョンとキケロ——理性と言語、社会の起源をめぐって——」(『獨協法学』

第四四号)

「ポリクラティクス」という書物——ソールズベリのジョンの政治思想研究序説」(『獨協法学』第四五号)

平成一〇年(一九九八) 「〈国家〉という身体——ソールズベリのジョンの政治社会論——」(『鷲見誠一・蔭山宏編

『近代国家の再検討』慶應義塾大学出版会)

「〈血の滴る剣〉——ソールズベリのジョンにおける『教会と国家』——」(『獨協法学』第

四六号)

「〈君主の鑑〉——『ポリクラティクス』における君主と暴君——」(『獨協法学』第四七号)

平成一一年(一九九九) 「〈陰画〉としての暴君——ソールズベリのジョンの暴君論」(『獨協法学』第四八号)

平成一二年(二〇〇〇) 「〈書物に殉じた鈍牛〉——トマス・アクィナスの思想世界」(『獨協法学』第五〇号)

「『歴史舞台の上のトマス』——中世の夏Ⅱ十三世紀」(『獨協法学』第五一号)

「『神学大全』——思想のゴシック建築」(『獨協法学』第五二号)

- 「十三世紀〈アリストテレス革命〉史観とトマス・アクィナス」(『獨協法学』五三三号)
- 平成一三年(二〇〇一)「神の善性 (bonitas Dei) としてのこの世と人間——トマス・アクィナス政治思想の神学的ニ形而上学的基礎」(『獨協法学』第五五号)
- 平成一四年(二〇〇二)「人間 (homo) ・ 社会 (societas) ・ 国家 (civitas) ——トマス政治思想の基礎構造」(『獨協法学』第五九号)
- 平成一五年(二〇〇三)「『聖なる教え』としての『政治学』——トマス政治思想研究への覚書——」(『法学研究』第七六卷二二号)
- 平成二〇年(二〇〇八)「《共通善》としての国家——トマス政治思想の基本的」(『獨協法学』第七六号)
- 平成二一年(二〇〇九)「私の思想史体験——いまにして思い知ること」(田中浩編『思想学の現在と未来』未来社)
- 「トマス・アクィナスの《混合政体論》」(『獨協法学』第七八号)
- 「トマス・アクィナスの暴君放伐論」(『獨協法学』第七九号)
- 平成二三年(二〇一一)「トマス・アクィナスの《正戦論》」(『獨協法学』第八五号)
- 平成二四年(二〇一二)「《神の統治》と《人間の統治》——トマス・アクィナスにおける『教会』と『国家』」(『獨協法学』第八六号)

【翻訳】

昭和四六年(一九七二) アロイス・デンプ「中世における知的文化の意義」(上) (『未來』No.六三)

同(下) (『未來』No.六四)

昭和五〇年(一九七五) J・B・モラル『中世の政治思想』未來社

昭和五一年(一九七六) ジョー・オールマン『創造の政治学』而立書房(共訳)

昭和五二年(一九七七) G・H・セイバイン『デモクラシーの二つの伝統』未來社

クレスピニー／マイノーク編『現代の政治哲学者』南窓社(共訳)

昭和五四年(一九七九) A・P・ダントレーヴ『政治思想への中世の貢献』未來社(共訳)

昭和五五年(一九八〇) バーカー／アレン／ラドナー『中世ヨーロッパ政治理論』御茶の水書房

昭和五九年(一九八四) R・M・ハッチンス『聖トマス・アクィナスと世界国家』未來社

平成三年(一九九一) M・I・フィンリー『民主主義 古代と現代』刀水書房

平成六年(一九九四) ハンス・リーベシュツ『ソールズベリーのジョン 中世人文主義の世界』平凡社

平成一四年(二〇〇二) J・B・モラル『中世の政治思想』平凡社ライブラリー

平成一七年(二〇〇五) トマス・アクィナス『君主の統治について』慶應義塾大学出版会

平成一九年(二〇〇七) M・I・フィンリー『民主主義 古代と現代』講談社学術文庫

平成二一年(二〇〇九) トマス・アクィナス『君主の統治について』岩波文庫

【書評】

昭和五五年(一九八〇) 加藤節著『近代政治哲学と宗教』東京大学出版会(『法学研究』第五三卷)

平成六年(一九九四) マイケル・シーゲル著『聖書がみる現代』(『本のひろば』第四二九号)

平成十一年(一九九九)「もう一つの中世思想史——坂口昂吉著『中世の人間観と歴史』」(『デジタル月刊百科』一九九九年七月号)

平成十五年(二〇〇三)「〈民族〉の由来と帰趨——瀬戸一夫著『時間の民族史』を読む」(『政治思想学会会報』第一七号)

平成二十二年(二〇一〇)甚野尚志著『十二世紀ルネサンスの精神——ソールズベリーのジョンの思想構造』(『史学雑誌』第一一九編一号)

同(『歴史学研究』No.八六八)

【教科書・事典など分担執筆】

昭和五〇年(一九七五)「第一次大戦後の『失われた世代』の政治的主張の思想史的意義」、
「現代における政治と倫理の関連性について」、「ユダヤ人問題の政治思想的意義」(内田満・内山秀夫・河中心講・武者小路公秀編『現代政治学の基礎知識』有斐閣)

昭和五二年(一九七七)「アウグステイヌスの政治思想」、「ゲラシウス理論(両剣論)」、「ローマ帝国理念の再生」、「ゲルマン人の国制」(有賀弘・内山秀夫・鷲見誠一・田中治男・藤原保信編『政治思想史の基礎知識』有斐閣)

平成三年(一九九一)「アウグステイヌス」、「中世の政治思想」(『現代政治学事典』プレイン出版)

平成六年(一九九四)「Ⅱ 神と人間の世界 概説」、「第三章 神と人間の調和——トマス・アクィナス」(中谷猛・足立幸男編著『概説 西洋政治思想史』ミネルヴァ書房)

平成 七年（一九九五）『政治思想史講義ノート』（而立書房）

平成二一年（二〇〇九）「ヨアンネス（ソールズベリの）」（『新カトリック大事典』研究社）

平成二六年（二〇一四）「アウレリウス・アウグスティヌス」（杉田敦・川崎修編著『西洋政治思想資料集』法政大
学出版会）

【その他】

昭和五七年（一九八二）「『神の国』と『ユートピア』」（『アウグスティヌス著作集12』教文館「月報XII」）

「国家と正義」（『三田評論』第八三一号）

昭和六〇年（一九八五）「新著余滴『アウグスティヌスの政治思想』」（『三田評論』八六五号）

平成二〇年（二〇〇八）「内山秀夫氏追悼 人間が人間らしく生きうる条件の模索を貫く」（『週刊読書人』二〇〇八
年五月二日）

平成二二年（二〇一〇）「或る編集者のこと」（『獨協大学学報』No.二九）

平成二六年（二〇一四）「トマス・アキナスの現代性」（『図書』第七八五号）